



北区認知症フレンドリーコミュニティ通信

北区では、認知症になってもそれまでの暮らしが尊重され、これまでどおり暮らしていけるまち「認知症フレンドリーコミュニティ」をめざした取組みをすすめています。
北区の認知症フレンドリーコミュニティづくりの活動について情報発信します。

Vol.17

令和5年度第2回

北区認知症フレンドリー検討委員会を開催しました！

9月22日（金）に令和5年度第2回認知症フレンドリー検討委員会を開催しました。今年度の振り返りと、今後の北区認知症フレンドリーアイデアミーティングについて検討しました。

これまでの振り返り

本人のつどい（R5.4月～8月）

北区認知症フレンドリーコミュニティ通信を参考に今年度の本人のつどいを振り返りました。家族の関わり方から高速道路の誤進入についてまで幅広いテーマで、毎回参加者の本人さんはお話しされてます。（詳細はVol.12・15をご覧ください。）

認知症本人の委員の方からは「自分の本音を言える場になっている」とのお話があり、それを受け他の委員の方は、「本人の語れる場として成熟しているところに感動する」とおっしゃっていました。✧

令和5年度第1回アイデアミーティング

北区認知症フレンドリーセミナー「認知症になってもはたらく！！」の開催報告

令和5年8月18日（金）に開催された第1回アイデアミーティングの報告をしました。認知症のある方の「はたらく・社会参加」の意義の共有を目的としています。（詳細はVol.14をご覧ください。）

講師の徳田さんからは「現在既にやっていることの洗い出しも大事だと感じた」とおっしゃっていました。

委員・参加者のみなさま



検討委員会の様子



今後のアイデアミーティングについて —「本人のやりたいことをみんなで実現する」ために—

● 第2回アイデアミーティング

目的：本人の「やってみたい」から取組みアイデアを考える

10月20日
開催予定

● 第3回アイデアミーティング

目的：第2回で出たアイデア実現に向けて、関係者の想いをつなぐ

12月20日
開催予定



委員の皆様から

様々なご意見をいただきました！

はたらく“場”について

間違えるつもりはなくても間違えることを許容してもらえる場所である方が気は楽。

活動がうまくいくためには、事業所とはたらく場所とはたらく内容が比較的近接している必要がある。

主体的に参加はするが、活動自体は自由度がある場所である必要性を感じた。

認知症のことを理解した場所で、はたらくというのは大変な難しいことと感じた。

利用者さんと本人のつどいの参加者の当事者同士の中で相互作用が生まれ、その熱が事業所の職員さんにも伝わると良い。

今後の方向性について

来年度につなげていくためにも、第2回でこちらからもアイデアを色々示せると良いのではないかな。

「はたらく」が最終目標ではなく、取組みの中で外部のプレイヤーたちとの関わりが増え、コミュニティができていくことがゴール。